

インバウンドが変える 日本の宿泊ビジネス

宿泊対応型マンションを取得

ディア・ライフ

不動産開発のディア・ライフ（東京都千代田区）

は、宿泊対応型マンションを建設する。このほど開発用地を取得した。同物件は、J R京浜東北線「大森」駅・

京浜急行本線「大森海岸」駅より徒歩6分に位置する。取得資金は、自己資金と東京都民銀行からの長期借入金によるもので、敷地面積は141・37㎡。物件名称は「(仮称)大森北二丁目ブ

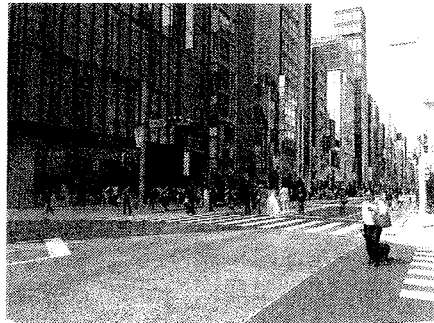
ロジエクト」で、延べ床面積858・99㎡、鉄筋コンクリート造地上10階建てで27戸を予定している。同社は、この物件を、全国初となる特区民泊条例が施行された大田区の駅近に立地する、という特性を活かし、同社初の宿泊対応型マンションを開発することを計画している。

アジア（東京都港区）と業務提携を締結。同物件も含めた宿泊対応型マンション向けトラベルコンテナツを充実させていく。具体的にはエボラブルアジアが持つ、国内航空券・J R・高速バスなどの各種商材、航空券と宿泊施設のダイナミックパッケージの提供を行うサービスを開始する。

ディア・ライフはすでに、ホームシェアの需要解析、予約管理システム「ミスタースイート」を提供するSQUEEZE（東京都港区）と連携しており、インバウンド向け宿泊施設提供事業を

推進していく。昨年、訪日外国人旅客数が過去最高を記録する中、供給不足が懸念されている宿泊施設提供で、法整備に基づく積極的な開発・提供を進めていく。国内でのホームシェア市場は、潜在的な経済効果が10兆円規模と言われており、今回の新規参入によるビジネス拡大を期待している。

ホームシェア向けマンション開発の着手にあたっては、法令遵守のうえ、SQUEEZEのコンサルティングのもと、準備をしていきたいという。



▶新築マンションを活用